

沼の平火口

明治33年7月17日の爆発でできた直径1400mのカルデラ式大爆裂口。この時の噴火で沼尻側にあった硫黄精錬所の従業員83名が死傷した。



高湯、冷湯、箱湯、黒湯、元湯の湯溜（温泉水の色が違う）

湯樋に溜まった湯花。飽和点に達すると流され白濁した湯になる。また、雪解けや大雨で天水が増えた時に影響を受ける源泉が50℃以下になると凝固し少し白濁した湯になるようだ。

岳の湯の科学

水素イオン濃度（pH）は2.5でレモンとほぼ同じ数値である。温泉成分はカルシウムイオン（Ca²⁺）濃度が高く、入浴後はサラッとした肌触りになる。また化粧水の成分でもあるアルミニウムイオン（Al³⁺）濃度も高く、お化粧の乗りが良くなるようだ。源泉から8kmの距離を湯もみさ

れ、酸性泉でありながらまろやかなやさしい肌触りになり浴槽に到達する。薬効は古代からの安達太良山の薬師如来信仰にも伺え、江戸時代の温泉効能番付表には「瘦毒に吉」と記されており、また、腺病質に効く「子供の湯」としても地元伝わっている。源泉引き湯かけ流しの岳温泉の4つの効果（成分・水圧・浮力・温度）を科学の目でも楽しむのもおもしろい。



温泉湧出地（くろがね小屋と馬の背・鉄山）



高温泉の湧出地（86℃、72℃、51℃と色々）

引き湯・源泉かけ流し



〒964-0074 福島県二本松市岳温泉 1-16
TEL.0243-24-2310
FAX.0243-24-2911
岳温泉ホームページ
<http://www.dakeonsen.or.jp>

案内図



岳温泉の 変遷と 引き湯

岳温泉の変遷と引き湯



◆岳温泉の由来

安達太良山と並びそびえる鉄山の南面直下、くろがね小屋の付近には豊富な源泉地帯があり、古くから陽日(ゆい)温泉として知られておりました。谷筋には灰白色に変質した岩肌が広がり、黄変した噴気孔からは熱い蒸気が絶え間なく噴き出しております。元湯の湧き出し口15箇所から毎分1350リットル湧き出る摂氏60度～98度の温泉が、金明水、勢至平、長坂を経て東方8キロの岳温泉へと引き湯されているのです。

そもそも陽日温泉は由緒ある温泉で、古く貞観年間すなわち西暦800年代に知られており、江戸時代には賑やかな湯治場として栄えておりました。しかし文政7年の大規模な山津波により壊滅しました。当時の二本松藩の肝いりで源泉を6キロの引き湯、塩沢温泉付近に『十文字岳温泉』として再興されましたが、後の戊辰戦争で全滅し、現在の岳温泉の南西に位置する『深堀温泉』として再建。ところが、明治36年の大火のため旅館街が全滅。明治39年に現在地に『岳温泉』が再興されました。

度重なる災難にもめげず、引き湯は行われてきました。当初の引き湯は木や瓦を用いて樋を作りお湯を通すというものでしたが、傷みややすく温度が下がってしまうため、昭和初期からは赤松の丸太の芯に穴を開けた『木管』を使うようになりました。この引き湯方式により、四季を通じて熱く豊かな湯を楽しめるようになったのです。お湯は山肌をとうとうと流れ下り、樋の中で適度に採まれて柔らかくなって辿りつきます。この湯が身体と心を癒してくれるのです。静かに流れる至福の湯、立ち昇る白い湯気のかなたに、いにしえの陽日温泉を偲んでください。

◆安達太良山と岳温泉の歴史

年号	西暦	事 項	資 料	時の動き
延暦2年頃 貞観5年 寛平9年 明応5年 天和9年 万治元年 寛文10年	783頃 863 897 1496 1623 1658 1670	万葉集の成立、安達太良が3首詠まれる 小結温泉神に贈位(従五位下) 小陽日温泉神に贈位(正五位下) 狩人が温泉を発見、陽日(ゆい)温泉と称する 安達太良山が噴火 山崩れが発生した 雲堂和尚が山止めの祈願に梵字石を刻む。以降150年間の山中での歌舞音曲を許す。(A図)	日本三代実録 日本紀略 相生集	・富士山大噴火(864) ・貞観大地震(869) ・応仁の乱(1477)
元禄11年 文政7年	1696 1824	水戸光圀が陽日温泉に入湯する 鉄山の一角が崩壊し温泉が全滅、二百数十人の死傷被害を出す(8.15) (B図)	相生集 二本松市史	・外国船打払い令(1825)
文政8年	1826	陽日温泉が全滅して塩沢十文字岳の麓に引き湯し、十文字岳温泉を再建する(C図)		
嘉永4年	1851	全国温泉番付にて、東方前頭二枚目にランク(D図)	諸国温泉効能鑑	・日米和親条約(1854)
明治元年 明治3年	1868 1870	十文字岳温泉が戊辰戦争の折、維新の兵火で全焼する 鉄山下の湧泉を深堀まで引き湯をして、深堀温泉を再興する(E図)	二本松市史 二本松市史	・磐梯山大爆発(1888)
明治33年 明治36年	1900 1903	沼の平大噴火、死傷者82人 深堀温泉が大火によって全焼する(9.20)		
明治39年	1906	岳温泉を現在の場所に再建する(F図)		
明治40年 昭和4年 昭和29年	1907 1929 1954	温泉神社創建 岳スキー場開業 岳観光株式会社が設立され、第1リフトが運行開始		・日本にスキー伝来(1911)
昭和57年 平成18年 平成23年	1982 2006 2011	ニコニコ共和国独立宣言(4.28) ニコニコ共和国を日本国統合(8.31) 東日本大震災発生。甚大な被害を受ける(3.11)		・バブル崩壊(1991)

■大黒天と岳温泉

岳温泉には大黒天が三か所にあります。岳温泉神社境内にある甲子大黒天は彫刻家橋本堅太郎氏により昭和59年(1984)の甲子の年に建立されたものです。

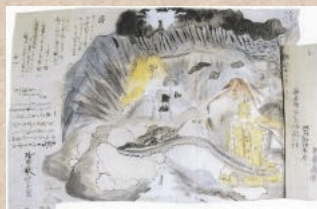
その年から遡ること120年の元治元年(1864)には十文字岳温泉に石造の甲子大黒天が置かれました(現在は湯川深谷沿い塩沢温泉登山口に移転)。

さらに遡ること60年の文化元年(1804)に作られた大黒天塔は、陽日温泉時代の下小屋であった深堀村の川沿いに建てられています。

災害により温泉地ぐるみで移転しながらも甲子の年には大黒天を建立、復興と永遠の繁栄を祈ってきた、時の道標だとも言えます。



A図



B図



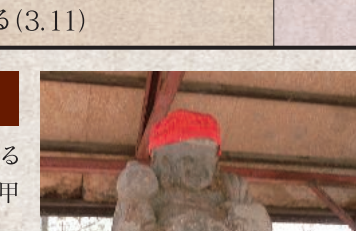
C図



D図



E図



F図



十文字岳温泉の甲子大黒天
1864年建立



岳温泉神社の甲子大黒天
1984年建立